

課題名：開館 30 周年記念企画展「ひょうごの恐竜展」～タンバティタニスとヤマトサウルス～

交付番号：202209

機関名及び氏名：兵庫県立人と自然の博物館 久保田 克博

実施内容報告書

助成対象事業である「ひょうごの恐竜展～タンバティタニスとヤマトサウルス～」は、開館 30 周年を記念し、本館の主な事業のひとつである県内産の恐竜化石に着目した企画展である。コロナ禍での開催ではあったが、手指消毒やマスク着用の下、予定通りに開催することができた。

本展における目玉として、2014 年に新属新種として命名された丹波市産の恐竜化石であるタンバティタニスの全てのホロタイプを初めて一堂に会すること、ヤマトサウルスの等身大タペストリーなども話題となり、多くの来館者が訪れた。加えて、丹波市や丹波篠山市から発見された恐竜の歯や卵殻の化石に関係した展示やタンバティタニスの 3D 映像も注目を浴びた。

実施概要

期 間	2022 年 7 月 15 日（金）～2023 年 1 月 9 日（月）
会 場	兵庫県立人と自然の博物館 2 階展示フロア
内 容	化石資料（実物化石及びレプリカ等） 210 点 生体復元模型 11 点 現生資料 5 点 デジタルコンテンツ 11 点
面 積	303.75 m ² （18 m x 16.875 m）

関連講座 1 セミナー「大空を目指した恐竜たち」

日 時	2022 年 7 月 23 日（土）
講 師	久保田 克博
参加者	12 名

関連講座 2 ワークショップ「石こうで化石のレプリカをつくろう！」

日 時	2022 年 7 月 30 日（土）
講 師	久保田 克博・フロアスタッフ
参加者	104 名

関連講座 3 ワークショップ「恐竜の巣のジオラマをつくろう！」

日 時	2022 年 10 月 1 日（土）
講 師	田中 康平（筑波大学）・久保田 克博
参加者	62 名

関連講座4 セミナー「獣脚類恐竜の歯の分類をしよう」

日 時 2022年10月8日(土)

講 師 久保田 克博

参加者 5名

関連講座5 特別講演会「ひょうごの恐竜」

日 時 2022年10月30日(日)

講 師 小林 快次(北海道大学)・久保田 克博

参加者 333名

関連講座6 セミナー「はじめての恐竜」

日 時 2022年11月27日(日)

講 師 久保田 克博

参加者 9名

関連講座7 ワークショップ「石こうで化石のレプリカをつくろう！」

日 時 2022年12月10日(土)

講 師 久保田 克博・フロアスタッフ

参加者 65名

協力機関等

モンゴル科学アカデミー古生物学地質学研究所、群馬県立自然史博物館、神流町恐竜センター、岡山理科大学 恐竜学博物館、北海道大学、洲本市立淡路文化史料館、高桑祐司、筑波大学、兵庫古生物研究会、丹波市立丹波竜化石工房、南あわじ市教育委員会、凸版印刷株式会社、国立科学博物館、岸本眞五、村上茂、南あわじ地学の会

期間中の博物館入場者数

65,873名

展示の様子



●会場入口

本企画展は当館従来の企画展示室の約4倍の面積を有する2階展示フロアをメイン会場とした。入口上部には企画展名を記載した垂れ幕を配し、場内をテーマごとに5つのゾーン（「恐竜研究史」、「タンバティタニスと丹波の恐竜たち」、「ヤマトサウルスと白亜紀の海」、「人と化石」、「鳥への進化」）に分け、それぞれのゾーンの始点にタペストリーを下げた。



●恐竜研究史：世界の恐竜

世界で最初に発見された恐竜・イグアノドン、世界で最初に命名された恐竜・メガロサウルスなど、恐竜研究の黎明期に名を残した資料を展示することで、世界の恐竜研究史の一端を紹介した。



●恐竜研究史：今昔物語

恐竜は新しい化石の発見や研究による新知見を得るたびに、復元像が変化し、より確かなものに近づいていく。ここでは、ある年代に復元された恐竜の生体復元模型を用いて、その変遷を紹介した。



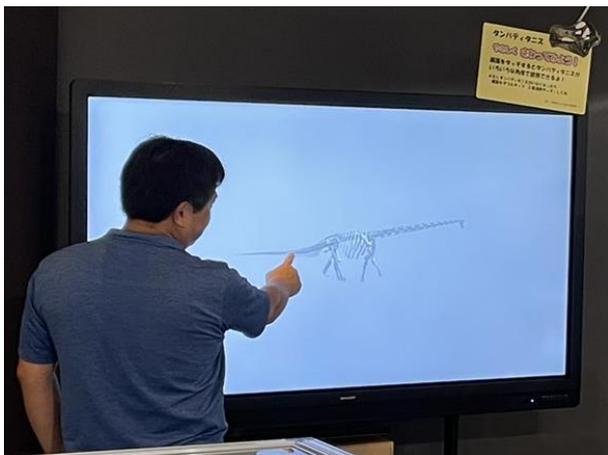
●タンバティタニスと丹波の恐竜たち

2006年に兵庫県丹波市で発見された恐竜化石は、2014年にタンバティタニス・アミキティアエと命名された。丹波市とそれに隣接した丹波篠山市からは他にも多くの恐竜化石が発見されており、現在でも研究が進められている。本ゾーンでは、それらの最新情報や研究方法を紹介した。写真の奥にあるタペストリーはタンバティタニス・アミキティアエの等身大の復元図。



●タンバティタニスと丹波の恐竜たち：タンバティタニスのホロタイプ

新しい学名が命名される際、その基準となる資料をホロタイプと呼ぶ。本ゾーンではタンバティタニス・アミキティアエの全てのホロタイプ68点を世界で初めて一堂に展示した。



●タンバティタニスと丹波の恐竜たち：タンバティタニスの3D映像

当館研究員により制作されたタンバティタニス・アミキティアエの3D映像をSketchfabにアップロードし、タッチパネル対応の大型ディスプレイを用いて、来場者が自由に拡大・縮小や回転をできるようにした。当館としては初めての試みであった。



●タンバティタニスと丹波の恐竜たち：頭骨

恐竜の頭骨を見比べると、大きさだけでなく、歯の形、歯の有無、目や外鼻腔の大きさなど、多くの違いがあることが分かる。その違いの意味を考える場として、多様な恐竜の頭骨を展示した。



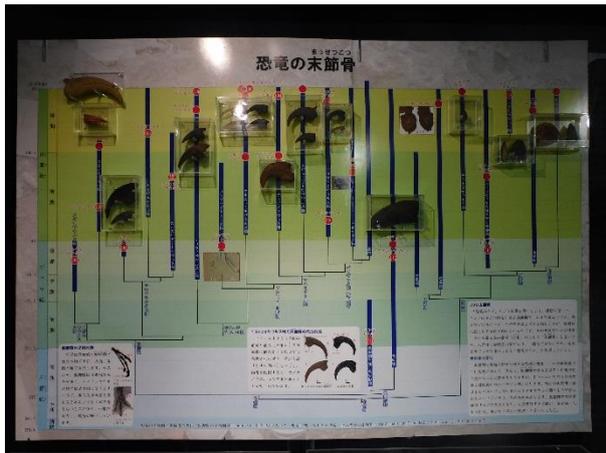
●タンバティタニスと丹波の恐竜たち：歯

近年、恐竜の遊離歯に関する研究が進み、恐竜の系統の中で歯がどのように変化したのか、それぞれのグループがもつ歯の特徴が客観的に示されるようになった。ここでは、恐竜の系統樹に歯の特徴と、歯そのものを配することで、恐竜の歯の変化を分かりやすく示した。



●タンバティタニスと丹波の恐竜たち：歯

兵庫県丹波市と丹波篠山市からは多様な恐竜の歯化石が発見されている。ここではその全てのグループを展示するほか、その仲間の歯化石も配することで、グループ内の類似性や相違点に気づくことができる展示とした。



●タンバティタニスと丹波の恐竜たち：末節骨
 恐竜の歯と同様に、前後の肢の末節骨（ツメが付く骨）は恐竜の種類によって大きく異なる。また、その違いは末節骨の機能を反映している。ここでは恐竜の系統樹上に末節骨を配することで、恐竜のグループごとの末節骨の形状の違いを分かりやすく示した。



●タンバティタニスと丹波の恐竜たち：末節骨
 様々な恐竜の末節骨を配することで、グループ内の類似性や相違点に気づくことができる展示とした。



●タンバティタニスと丹波の恐竜たち：卵殻
 兵庫県丹波市はこれまでに6種類の恐竜の卵殻化石が報告されている。中でもヒメウリスは鳥類を除く恐竜の中では最も小さい卵化石とされ、ギネス記録としても認定されている。ここでは6種類全ての卵殻化石のほか、現生の卵や海外産の卵殻化石を展示し、卵殻について学ぶ場を提供した。



●タンバティタニスと丹波の恐竜たち：卵殻

卵殻化石の研究法として、殻の断面を薄く磨き、顕微鏡で覗いた際に見える断面構造により分類を調べる方法がある。ここでは現生と化石の卵殻の薄片を顕微鏡で観察でき、卵殻の研究方法を体感的に知ることができる場を提供した。



●タンバティタニスと丹波の恐竜たち：モンゴルの恐竜

モンゴルのゴビ砂漠からは奇跡的な保存状態の恐竜化石が発見されている。例えば、格闘恐竜は肉食と植物食の恐竜が絡み合い、肉食恐竜の後肢のカギヅメが植物食恐竜の喉元に突き刺さった状態で発見された化石である。また、抱卵恐竜は巣の上で卵を抱いた状態で発見された化石である。丹波の恐竜をイメージしやすくするために展示した。



●ヤマトサウルスと白亜紀の海

2004年に淡路島から発見された恐竜化石は、2021年にヤマトサウルス・イザナギイと命名された。淡路島には海成層が広く分布し、海生爬虫類やアンモナイトの化石が多く発見される。本ゾーンではその代表的な化石を紹介した。右にあるのはヤマトサウルス・イザナギイの実物大タペストリー。



●ヤマトサウルスと白亜紀の海：ヤマトサウルス

ヤマトサウルス・イザナギイのホロタイプ23点を一堂に展示した。このほか、洲本市が製作したヤマトサウルスの1/10生体復元模型と頭骨復元模型を10月から借り受け、追加展示した。



●ヤマトサウルスと白亜紀の海：アンモナイトと脊椎動物の化石

当館の連携活動グループである兵庫古生物研究会の協力を得て、彼らが採取した淡路島産の多様なアンモナイト、魚類、カメ、首長竜、モササウルスなどを展示し、淡路島から発見される化石の多様性を示した。



●人と化石

兵庫県の化石の研究や教育普及は研究者のみならず、多くのボランティアや連携活動グループの協力の下で成り立っている。ここでは彼らの活動やその成果物をパネルや資料を用いて紹介した。



●鳥への進化

鳥類は恐竜の1グループであるという仮説が有力視されて久しい。ここではその証拠とされた羽毛をもつ恐竜や始祖鳥などを展示し、非鳥類型恐竜が鳥類化した過程を紹介した。



●インタビュー映像3種

タンバティタニスの発見者である村上茂氏、ヤマトサウルスの発見者である岸本眞五氏のほか、当館の連携活動グループや地域研究員、各種ボランティアなど、恐竜やその他の化石の事業では欠かせない方々の撮り下ろし映像を会場内3カ所で随時上映した。



●ひとはくサロン

2階のメイン会場とは別に、4階のひとはくサロンにて、有名な恐竜であるトリケラトプスの頭骨を展示した。また、国立科学博物館および凸版印刷株式会社の協力を得て、ティラノサウルスの3D映像をタッチパネル対応の大型ディスプレイを用いて、来場者が自由に拡大縮小や回転をできるようにした。